

クリケット

英国大使館戦は惜敗

12月2日に中大の軟式野球場で、わが国では珍しいクリケットの試合が行われた。クリケットは世界の競技人口がサッカーに次いで2位と、きわめてポピュラーな競技で、イギリスやオーストラリアの国技になっている。この日、対戦したのは中央

大学の男子クリケット・クラブ「英吉利倶楽部」とイギリス大使館チーム。毎年行われている親善試合で、ことしで10回目となった。

英吉利倶楽部は、中央大学創立当時の学校名「英吉利法律学校」から名前を取ったサークルで、創部13年

目になる。創部当初から「学内でイギリス大使館チーム対戦する」が夢だった。

英国大使館戦というのは、第1回目から実質4年生の卒業試合となっている。ことしは過去最も少ない人数の4年生3人、3年生6人、2年

ぎ、後攻はその点を追い越しにかか

る。先行・後攻を決めるのは、試合前のコイントスにより、今回は大使館チーム先行、英吉利倶楽部の後攻となった。

英国大使館チームは、さすが本場のチームらしく野球でいうホームラン性の当たりが連発し、後半は英吉利倶楽部が粘りに粘って、英国大使館チームに迫ったが、結果は121-149で惜敗した。

3月の豪州遠征で 本場の力つけてくるゾ

生2人、1年生1人がチームに組み入れ、対する英国大使館チームは人数不足により、こちらから2年生1人、1年生2人が入ったの対戦になった。記念すべき10回目の試合。過去の対戦成績も英吉利倶楽部の4勝5敗

だっただけに、本校勢の「今回は勝つぞ」の士気は、いやがうえにも盛り上がった。

クリケットの試合は、野球でいう1回表・裏のみ。先行が先に点を稼

残念なことに英吉利倶楽部は、こしも負け越してしまっただが、試合はもちろん、試合後のレセプションでも、英国大使館との交流は大いに深まった。

中大の男女チームは3月にオーストラリア遠征を企画し、本場のクリケットの技術を身につけようと張り切っている。その成果を持ち帰り、来年度の大使館戦で発揮してもらいたい。
(学生記者・柿元 理榮)



日米両チーム仲良く



白熱のゲームだったが……